



営農NEWS



水稻のイネツトムシやニカメイチュウの発生に注意しましょう

本年の水稻栽培は、田植え後から天候に恵まれ、ほぼ順調な生育となっています。梅雨入り後には天候不順の日が続きましたが、6月末に梅雨が明けるといふ異例な天候で、生育も平年より進みがちの傾向となっています。「あきたこまち」では既に出穂期に入り、「コシヒカリ」も幼穂形成～穂ばらみ期の頃と予想されます。

ところで、県病害虫防除所「病害虫発生予報7月号」によりますと、6月下旬現在、**イネツトムシの発生は平年よりやや多い～多い**状況で、今後、葉色の濃い水田を中心に発生に注意が必要とされています。

また、**ニカメイチュウの発生も平年よりやや多い発生**と予想されています。

これらの害虫は地域や水田により発生状況に大きな差異がありますが、本年は例年よりも発生に注意が必要となっていますので、水田内の被害発生状況をよく観察し、害虫の早期発見と適期の防除に努めてください。

1 イネツトムシ

水田における幼虫の発生は主に2回で、例年では6月中旬～7月上旬および7月下旬～8月中旬頃に発生し、葉を食害します。このうち、7月下旬頃から発生する第2世代幼虫による被害が大きくなります。特に、**水稻の葉色の濃い水田（麦あと等の遅植えや晩生品種、多肥栽培、稲発酵粗飼料稲、飼料用米など）で多発生しやすい**傾向があるため、これらの水田では十分な注意が必要となります。今後は、**7月中～下旬頃より**水田内の発生状況をよく観察し、発生が多い場合には**幼虫の小さい時期（葉先が巻かれ始めた時期）に防除**を行ってください。

表1 水稻 イネツトムシの主な防除薬剤（平成30年7月12日現在）

薬剤名	使用量(10aあたり)または希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
パダン粒剤4 ※※	3～4 kg	収穫30日前まで / 6回以内	14
スミチオン乳剤 ※	1,000倍	収穫21日前まで / 2回以内	1B
パダンSG水溶剤 ※※	1,500倍	収穫21日前まで / 6回以内	14
MR. ジョーカー粉剤DL	4 kg	収穫7日前まで / 2回以内	3A

注1. 表1および2とも、※または※※印の薬剤は同一有効成分を含みますので、総使用回数に十分注意してください。各薬剤のいずれかを使用して防除しますが、**収穫前日数には十分注意**してください。

2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

2 ニカメイチュウ

ニカメイチュウによるイネの芯枯れが、地域により、発生の増加する傾向があります。

本虫は年に2回発生し、イネ刈り株や稲ワラ内で越冬した幼虫が蛹化、羽化して成虫となり、5～6月頃に本田の稲に産卵します。このふ化した第1世代幼虫は茎内に食入し、6月下旬～7月下旬頃に茎の下部が黄色くなり、芯葉が枯れる芯枯症状が発生します。現在、この芯枯れの目立つ水田およびその周辺では、この後、再び蛹化、羽化、産卵を繰り返して、ふ化した第2世代幼虫が例年では8月中～下旬頃から茎内や芯部に食入するため、被害として「出すくみ」や「白穂」が発生します。多発生している水田では、今後、**第2世代幼虫を対象として8月上～中旬頃を中心に防除**を行ってください。

表2 水稻 ニカメイチュウの主な防除薬剤（平成30年7月12日現在）

薬剤名	使用量(10aあたり)または希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
スミチオン乳剤 ※	第1世代対象 1,000～2,000倍 第2世代対象 800～1,000倍	収穫21日前まで / 2回以内	1B
パダンSG水溶剤 ※※	1,500倍	収穫21日前まで / 6回以内	14
スミチオン粉剤3DL※	3～4kg	収穫21日前まで / 2回 (出穂前は1回)以内	1B

注) スミチオン乳剤で、専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布機器を用いる場合や、無人ヘリコプターを使用する場合には、それぞれの農薬使用基準を遵守して使用してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040